

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600079		
法人名	有限会社ほのほの月寒		
事業所名	グループホームほのほの音羽		
所在地	苫小牧市音羽町2丁目10-1		
自己評価作成日	平成27年2月25日	評価結果市町村受理日	平成27年4月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣に保育園があり、年に数回(クリスマス・運動会・敬老の日等)行事の中で交流することや、普段も近くの公園で話したり、遊んだりする機会があります。又、地域との関わりとして、町内会の方々が常に暖かく見守って頂き、盆踊りや親子レクの参加、運営推進会議等で交流させていただいております。利用者さんの希望を取り入れた外出も実施しています。職員としては、会社で今年度より誕生日休暇ができました。提供する食材は、基本北海道産であり、地域の特産物(白老肉ハンバーグ等)もよく提供しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0193600079-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0193600079-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成27年3月30日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

苫小牧市中心部近くの閑静な住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。周囲には公園や保育園、商店、バス停などがあり、地域との交流がしやすく、利便性の高い環境となっている。「地域との繋がりを大事にする」という内容を理念に掲げて共有し、職員は理念をよく理解している。また、職員同士お互いに意見の言いやすい関係を築いており、職員は利用者にも明るくやさしく接し、良い雰囲気を作っている。サービス評価について真摯に取り組み、前回の期待したい取り組みに対しては、身体拘束に関する勉強会の実施や、利用者の基本情報シートの整備、記録におけるプライバシー保護など、順次改善の取り組みがなされている。介護計画については、ルールに沿った定期的な見直しが行われ、日々の記録においても計画目標を意識しながら適切な記録を行い、見直しの際に活かしている。医療面では、内科の協力医療機関による往診体制が整い、その他のかかりつけ医や内科以外の受診も事業所で通院を支援しており、個人毎の受診・往診記録も整備されている。共用空間や居室も、温かみのある装飾や、馴染みの生活用品、遊び道具などが置かれ、居心地よく過ごせる空間となっている。

V. サービスの成果に関する項目(1階アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆さまが和気藹々と生活をおくれるように日々努めるとともに、地域との関わりを持つ機会を定期的に持てるように支援しています。	開設時に作成した3項目からなる運営理念の中で「地域との繋がりを大事にする」という内容を含め、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念としている。理念を入口や共用部分に掲示し、職員は理念をよく理解している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事の参加(盆踊り・親子レクの参加、運営推進会議での報告等、隣の保育園との関わり等しております。	公園や町内会館で行われる町内会の行事に利用者と共に参加している。敬老会のイベントに地域のゆるキャラが来訪し、利用者と交流している。七夕に近くの保育園児にお菓子を渡したり、卒園時などに園児が事業所を訪れて交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、地域包括・介護保険課の方と交えながら、町内会の代表参加者の方には伝えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価・実地指導の結果報告(書類提出含む)をし、ご意見があれば聞いています。	会議は2か月毎に開催され、市や地域包括支援センターの職員、町内会長、民生委員が参加しているが、過去1年は家族の参加が得られていない。事業所の活動報告を中心に外部評価の報告も行っており、議事録も全家族に送付している。	家族の参加が継続的に得られるよう、働きかけを期待したい。参加が難しい場合は事前に意見をj得て議題に乗せるなどの取り組みも期待したい。また、活動報告以外にも議題を設け、話し合うことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で2か月に1回集まって報告、それ以外でも先方からの依頼があれば書類提出や、こちらから出向いて相談にも伺っています。担当者の方は、顔を見ただけで、どこの施設の人かわかるくらいです。	運営推進会議で市や地域包括支援センターの職員の参加を得て情報交換している。書類を提出するために直接市役所に出向いて行ったり、実地指導の後、相談や報告に市役所を訪れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回ほどではあるが、会議を利用して勉強会を行っています。	身体拘束の禁止の対象となる具体的事項を示したマニュアルを用意して11月に勉強会を行っており、職員は内容を正しく理解している。玄関の鍵は日中はかけておらず、居間から玄関に通じる戸にチャイムをつけたり、玄関にセンサーをつけ、外出が分るようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今月実施予定。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今月実施予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明をしてから同意を得ています。重要事項が変われば、契約書は新たに作成し契約していただきしています。入居後も必要なことがあれば、説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項に外部の連絡先は記載しています。苦情担当者や起きた場合の対処の流れなども記載しており、契約時説明しています。ご意見に関しても、日々利用者さんやご家族との関わりの中で聞き、できる範囲ではありますが、対応しています。	家族の来訪時や介護計画説明時に意見を得て、得られた意見を連絡ノートで共有している。毎月、事業所の様子を書いた手紙を家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は2年に1度くらい職員と面談をしています。毎月施設長会議で集まり、運営に関して予算・実績や、各施設の状況報告等行っています。	月1回のカンファレンス兼ミーティングがあり、職員同士活発に意見交換している。管理者と職員の面談を随時行い、代表者も2年に1回、職員と面談している。身体拘束や行事、感染予防などの委員会があり、職員が分担して役割を担っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度より人事考課を始めることになりました。そこでわかるようになると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は行えていません。外部研修については、参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設側で研修会の参加を促しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の細かい情報を理解することでご本人の要望など受け入れ、生活しやすい環境に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や来訪時に思いや要望、相談を親身になってお話を聞くよう努めています。又、ご本人の施設での生活ぶりを伝え、ご家族の方が話しやすい雰囲気作りや相談ができる信頼関係作りにも努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方ができること、施設ができることを伝えあい、ご本人に合ったケアを見極めて支援を実施しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活している仲間としてスタッフと一緒にできることはお手伝いして頂き、張りのある生活を送れるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には部屋で一緒に過ごし、お話ししやすい環境を作るよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人から昔の話を聞き、話に出てきた場所へ通院の帰りに通ってみるなどしています。	4～5名の利用者に対して、元近所に住んでいた友人や宗教関係の知人などが来訪している。携帯電話を使用している方もいる。家族の支援により馴染みの美容院に行く方もいる。希望に応じて買い物に同行したり、ラーメンを食べに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の興味のあることを把握し、日々の中でよい関係ができるように間に入って支援しています。洗濯物等、一か所に集まってお手伝いをして頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から要望があれば可能だが、実際にはしていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限りご本人の意向に沿えるように努力している。意思疎通が困難な場合は、ご家族にも協力していただいている。	半分以上の方が言葉で思いや意向を表出でき、難しい場合も問いかけた際の反応や家族の情報などから把握している。新しい書式の基本情報シートに生活歴などの情報を蓄積し、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時やその後も、ご本人との会話等で把握したり、ご家族の協力を得て努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	無理のない程度にできることをしていただきたり、好きなこと(読書など)をして頂いている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の要望はもちろん、職員ともカンファレンスや、普段の中でも意見を出し合い介護計画を作成しています。	3か月毎に介護計画を更新している。モニタリングとケアチェック表を参考にカンファレンスを行い、家族に説明した上で更新している。計画目標を載せたケアチェックシートにサービスの実施状況や利用者の様子を記入し、月1回情報を整理している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の生活状況や、食事水分の摂取量。血圧やトイレ回数等チェックを日々行い、普段と変化が出れば、申し送りやカンファレンスで話し合い、必要なことは介護計画に取り入れています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会の回数に差があるため、ご家族と関わりが少ない利用者さんに対しては、個別で夕食などの支援を行っています。又、市の協力により隣の公園に花壇をおいています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	最初から手を差し伸べるのではなく、見守り・声かけでまずご本人ができる範囲のことをして頂き、不十分な所やできなかったことを、して頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診している病院にかかるか、以前から利用している病院にするかどうかの選択はご家族の要望に応えるようにしています。又、医療機関との連携(情報共有等)も行っています。	内科の協力医療機関による往診があり、利用者の約9割がそれぞれ月1～2回、受診している。その他のかかりつけ医や内科以外の受診も事業所で通院を支援している。個人毎に受診・往診記録を整備し、情報を共有している。	

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	随時、往診や訪問看護に気づいたことを伝え、相談や適切な指示を受けています。又、訪問看護では日々の管理の仕方や、受診が必要な場合になった時の連絡などもして頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院してからの経過報告、長期入院による利用者のダメージを話し合い、施設で安全に生活できるのであれば、過剰な入院期間にならないように話し合いをしています。協力医療機関とは、密な関係作りはできています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人との話し合いは難しいので、ご家族と医療機関、訪問看護と連携して支援している。(病院受診も困難な方には、施設で点滴などの処置をして頂くなど)	重要事項説明書の中の「重度化対応・終末期ケア指針」を契約時に説明している。事業所では過去に看取り直前までの経験があり、今後も様々な条件がそろえば看取りを行う方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は特別行っていない(この1年は)。来年度実施計画を立てます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災のみではありますが、年2回日中・夜間と想定した訓練は行っています。	年2回の昼間を想定した避難訓練を消防や地域の協力のもと行っており、今後は夜間想定も行う予定である。職員の救急救命訓練の受講を行っているが、新しい職員など未受講の職員もいる。災害時の備蓄品は用意されている。	未受講の職員を優先に、職員が定期的に救急救命訓練を受講できるよう計画的な取り組みを期待したい。また、地震等火災以外の災害について、マニュアルを用意し、職員間で対応確認の話し合いを行うことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者全員同じ関わりはせず、一人ひとりそれぞれの対応を考え、言葉かけや対応をしています。	利用者へは「さん」付けで呼びかけ、言葉のトーン等も配慮している。カーデックスの見出しは個人名を出さず、記録類も事務室で安全に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定のできる方にはその都度対応している。意思決定のできない方のは、短い単語やジェスチャーをして工夫したり、ご本人が出すサインを見るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを崩さないようにしていますが、希望に添えない時もあります。(自宅での起床・食事時間・入浴時間等)できないことはご本人に了承して頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度美容室の方に来訪して頂き、カットしてもらっています。更衣時にご本人の着たい服を選択してもらっています。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日や行事などには、好みの食事を提供できるように献立を作成したり、追加をしています。コップの下膳やテーブル拭き等できる方にはしています。	利用者は下ごしらえや下膳等を手伝っている。食材会社が提供する献立で、職員も一緒に同じ食事をとっている。職員手造りのおやつもある。誕生日はお寿司やケーキ等好みのものを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が少ない方には、こまめに水分を提供しています。ご本人が飲みやすい種類を選ぶ工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝の洗面・夕食後に口腔ケアを行っています。自力で困難な場合は介助をしています。汚れが目立つ場合は、その都度対応しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔が長い時等は、声かけを行い、失敗せずトイレで排泄できるように支援しています。	「日常生活記録」で利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握して声かけし、日中は全員がトイレで排泄できるように支援している。トイレ誘導の際は、周囲に気づかれぬように小さな声で「用事があるから来てください」等さり気なく誘っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化しやすいよう、食べやすい大きさにしています。水分の摂取量など気を付けています。それでも困難な場合は、便意を促す薬の服用等を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人がその時望まなければ、翌日へ繰り越します。入浴したときは、個々にあった会話をしながら支援しています。	日曜を除き、午前と午後の時間帯で週2回の入浴を支援しており、入浴を拒否する利用者はいない。多種の入浴剤も揃えて、利用者は職員と会話をしながら楽しく入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングで傾眠されていたり、体調によって、夜間に影響しない程度に自室で休んでいただくこともあります。日中はリビングで過ごされる方が多いです。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に新しく処方された薬に関しては、変化の注意をし、影響が強い場合は、薬剤師や医師等に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆さんに提供するような役割をできる利用者さんが少ないです。ただ、自分に対して必要なことに関しての役割は行って頂いています。食べるのが1番の楽しみ事だと思うので、食事・おやつ等工夫しています。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に行くことにおっくうにならされている利用者さんが増えています。強制にはしていませんが、なるべく外出する楽しみをもってもらえるようにお誘いしています。	天候の良い時期には近隣の公園を散歩し、港までドライブをしている。毎週、職員がスーパーに買い物に行くので、利用者も一緒に行っている。冬場は、職員と一緒にゴミを捨てに行ったり外気浴を楽しんだり、通院の帰りに遠回りをしている。外出行事で港まつりやスケートまつりも見学している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員で金銭を預かり管理しています。必要なものがあつたら、ご希望のものを購入しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状はご家族に書いてもらうように声かけしていますが、断ることが多いので、代筆でご本人のコメントを書くようにしています。電話は希望の際は、使用してもらっています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごしていただくように、空間を余計なものでごちゃごちゃさせぬよう片づけをし、壁は見えていて楽しめたり、季節を感じられるような飾りつけを行っています。又、ソファでくつろげるようにしています。	居間兼食堂には、木のテーブルが数か所に配置され、ゆったりとしたソファもある。職員手造りの大きなカレンダーや季節の装飾品が掲げられており、廊下には行事の写真も貼られている等、家庭的で温かい雰囲気である。全体がバリアフリーで、トイレや洗面所、浴室等の設備も整っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席やソファで座りながら、テレビを見たりおしゃべりしたりと、自由に楽しく会話をして過ごしてもらっています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時自宅で使い慣れた物を持ってきて頂き、家族の写真や小物などを置くよう工夫しています。	居室入口には、職員手造りの表札が掲げられており、室内には、利用者の馴染みの家具や飾り物、家族の写真等が持ち込まれ安心して過ごせる空間となっている。壁にもカレンダーや寄せ書きなどを飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室等の手すりの確保。車椅子の方が移動しやすいようにスペースの確保をし、見守りや声掛けを行っています。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600079		
法人名	有限会社ほのほの月寒		
事業所名	グループホームほのほの音羽		
所在地	苫小牧市音羽町2丁目10-1		
自己評価作成日	平成27年2月25日	評価結果市町村受理日	平成27年4月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階 ユニット」に同じ
--------------

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0193600079-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0193600079-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年3月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2階 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆さまが和気藹々と生活をおくれるように日々努めるとともに、地域との関わりを持つ機会を定期的に持てるように支援しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事の参加(盆踊り・親子レクの参加、運営推進会議での報告等、隣の保育園との関わり等しております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、地域包括・介護保険課の方と交えながら、町内会の代表参加者の方には伝えていきます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価・実地指導の結果報告(書類提出含む)をし、ご意見があれば聞いています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で2か月に1回集まって報告、それ以外でも先方からの依頼があれば書類提出や、こちらから出向いて相談にも伺っています。担当者の方は、顔を見ただけで、どこの施設の人かわかるくらいです。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回ほどではあるが、会議を利用して勉強会を行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今月実施予定。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今月実施予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明をしてから同意を得ています。重要事項が変われば、契約書は新たに作成し契約していただいています。入居後も必要なことがあれば、説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項に外部の連絡先は記載しています。苦情担当者や起きた場合の対処の流れなども記載しており、契約時説明しています。ご意見に関しても、日々利用者さんやご家族との関わりの中で聞き、できる範囲ではありますが、対応しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は2年に1度くらい職員と面談をしています。毎月施設長会議で集まり、運営に関して予算・実績や、各施設の状況報告等行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度より人事考課を始めることになりました。そこでわかるようになると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は行えていません。外部研修については、参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設側で研修会の参加を促しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その人なりの今までの生活環境等を聞き、その人の性格を考え、信頼関係を結びあい、不安や要望を聞き実現するよう支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に関しても15番と同様です。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居する前にいったん、ご本人とご家族と面談をし、どのような支援を求めているか聞き、ご本人やご家族の希望に添えるよう対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	傾聴やグループワークを楽しみ、誕生会や季節の行事など一緒に過ごしています。日々の生活状況をお伝えしています。利用者ご本人より故郷の歴史を教えて頂くこともあります。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも来訪して頂き、「利用者さんとのひとときを過ごして頂きながら、日ごろの生活状況をお伝えしています。又、ご家族の希望などお聞きしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人より思い出話を聞き、なじみの人と関係が途切れないよう連絡ができる環境を支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間の関係を大切にしています。全体としても全員がなじめるよう支援しています。時々利用者さん同士でトラブルがありますが、仲介し対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	郵便物が退去後も届くことがあるため、そういったきっかけで連絡することはあります。その利用者さんの退去状況(長期入院)もあるため、フォローすることはほぼないです。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のやりたいことを聞いて実施していき、困難な時は傍で声かけをしています。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人らしく生活できるように、利用者さんに合ったサービスや声掛けをしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調に合わせて、ご本人のできることを手伝って頂いています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月スタッフ会議を行っています。ご家族が来所された際、利用者さんの現状をお伝えして、ご家族からの希望などお聞きし、介護計画を作成しています。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の記録を毎日記入し、利用者さんの訴えや気づいたことを、スタッフノートに記入し情報共有しています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との関係を大事にし、イベント等の写真を送ることにより、施設での暮らしを伝えていきます。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣の保育園や町内会のイベント等に参加して、ご本人のできる限り体を動かして楽しんで頂いています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が体調不良を訴えた場合、訪問看護や往診先の病院へ連絡して相談し、指示を受け受診をしています。			

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度は訪問看護を利用し、1週間の情報を伝え、特変がある場合は指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、病院と連絡をとり、利用者さんの状態を確認し情報交換を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族には説明し、必要に応じ話し合い方針を決めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルにて、発生時の動きなど各自把握しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地域の方々と共に、避難訓練を行っています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なるべく皆さんのわかる共通の話題を選んだり、趣味や昔話を丁寧に聞くよう対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる利用者さんには耳を傾けるし、できない利用者さんには決定に近づけるように話しかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごすことを好む利用者さんは巡回し見守りをしますが、他の利用者さんはリビングでスタッフや利用者さん同士話をしたり、テレビを見たりゲームをしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自力で選んで着用し、できない利用者さんはスタッフが気候に合わせて着用して頂いています。又、2か月に1度訪問で髪をカットしてくれています。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べれないものには個人向けに代替えをしています。食事の準備を一緒に行うこととしては主にもやしの芽取りは複数で行い、盛り付けやテーブル拭きは個人で、下膳はできる方は行ってもらっています。食器拭きも行って頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせ量を調整しています。又摂取量が少ない場合は声かけをし、無理がないように対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日歯磨き・入れ歯の洗浄を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの最終排泄を確認し、それぞれの間隔に添えるよう声掛け又は誘導にて対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限り午前中に体操を取り入れ、車椅子の利用者さんは上半身だけでも動かしてもらえるように声かけしています。食事は丸飲みすることがないように、噛む力がない方は食材を細かくする、噛む力がある方はよく噛んで食べるように声かけしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者さんの体調を考慮し入浴しています。できる限り希望を聞き(1番に入りたい等)、対応しています。入浴中も一緒にお話をして、楽しいひと時を過ごせるように心がけています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、休息をとりたい方には、寝すぎることをないように声かけをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルを作成し、薬の説明書を保管し、いつでも確認ができるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洋裁が得意な方には簡単なゴム通し、料理の得意な方には野菜の皮むき等集まってして頂いています。日々はトランプやカルタをして楽しんでいます。又港祭りにパレードを見学したり、ラーメンを食べに行ったりします。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日は外へ出て散歩や公園へ行ってシャボン玉をしたり、近くの保育園の子供たちとふれあったり、遊びや運動を見学したりしています。又、地域の盆踊りに参加したり、保育園のクリスマス会にサンタの格好で参加しています。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人は自分のお金があることをわかっており、予算内で化粧水や歯ブラシ、髪飾り、衣類やおやつなど、体調や都合に合わせて買い物に行っています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族には連絡がとれるよう、携帯番号等都合の良い時間を聞いており、ご本人希望で電話をして話しています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は落ち着いた雰囲気を大切にしながら、季節に合わせた装飾を取り入れ楽しんでいただけるよう工夫している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの希望を取り入れながら、食事の席を決め、心穏やかに過ごせるように工夫しています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望を取り入れながら、趣味で作成したものや、ご家族からのプレゼント等を居室に飾ったりしています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・廊下・リビング等移動スペースを確保し、行動する意欲がでるよう声かけしています。			

## 目標達成計画

作成日：平成 27年 4月 6日

市町村受理日：平成 27年 4月 6日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を生かした取り組み→家族の参加が継続的に得られるように期待したい。参加が難しい場合は事前に意見をj得て議題に乗せるなどの取り組みも期待したい。また、活動報告以外にも議題を設け、話し合うことを期待したい。	毎回は難しいが、ご家族の方が参加しやすい工夫を行う(6回のうち3回くらいの参加を目指す)	ご家族の方も興味を持つような議題の設定をし、案内をする。又、会議に参加する方々の力を借りつつ、勉強会的なことをし、マンネリ化しないようにする。	今年度より実施。次回会議5月のため、外部評価の報告をする。
2	35	災害対策→未受講の職員を優先に、職員が定期的に救急救命訓練を受講できるよう計画的な取り組みを期待したい。また、地震等火災以外での災害について、マニュアルを用意し、職員間に対応確認の話し合いを行うことを期待したい。	火災以外の災害の避難について知識を学ぶ。	マニュアルの用意。ユニット会議を利用して、全職員で勉強会の実施。火災については、今まで通り年2回訓練を実施。	27年度中には作成と勉強会を実施。
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。